

学校関係者評価委員会 報告書
(平成 26 年度)

平成 27 年 10 月 26 日

学校法人国際総合学園

国際こども・福祉カレッジ

平成 26 年度 国際こども・福祉カレッジ 学校関係者評価委員会報告

1. 開催期日

平成 27 年 10 月 26 日（月）17:30～19:00

2. 開催場所

ホテル イタリア軒

3. 出席者（8名）

（外部委員）山崎一夫、稲田泰紀、宮崎則男、地引文貴

（本校職員）学校長、副校長、教務部長 2 名、事務局長

4. 委員会次第

- ・開会の挨拶（学校長）
- ・学校関係者評価委員の紹介
- ・学校自己評価の説明（平成 26 年度の取り組みについて）
- ・学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・閉会

5. 学校自己評価に対する意見、質疑応答

① 教育理念・目標

→概ね良好である。

② 学校運営

- ・情報公開に関する評価が「3」である理由とは。
→ホームページを中心に学校概要や学生の手引き、自己評価、学校関係者評価委員会報告、財務状況、学科の基本情報等を公開しているが、実習状況や国家試験受験状況など学生の個人情報保護の観点からも公開が困難あるいはできない内容もあり、その評価をどこで線引きするか検討中である。
- ・運営組織や意志決定機能の明確化等に関しては、組織図や校内分掌表、規程便覧等設置の状況からも、評価は「4」で良いのでは。

③ 教育活動

- ・要件を備えた教員の確保には困難が伴うと思われるが。
→法人本部の人財開発部との連携により、要件教員の確保は遂行できている。

しかし、要件教員の確保が難しいのは確かであり、法人内連携のほか、職能団体等との連携も不可欠である。

④ 学修成果

・退学に至る理由は。

→人間関係のつまづきや、内面的理由で在学中に毎日登校できなくなる学生も少なくない。カウンセラー協会等とも連携を図りながら対応している。

10年前、5年前とは異なる学生像があり、常に時代に合わせた対応を学校全体として取り組んでいる。

⑤ 学生支援

・学生に対する経済的支援体制について、奨学金制度の利用状況は。

→現在、200名程が何らかの奨学金制度を利用している。また、分納等の相談にも出来る限り柔軟に対応をさせていただいている。

⑥ 教育環境

・海外研修の実施状況は。

→平成26年度は韓国湖西大と交流事業として、韓国学生の受入れとWM学生の韓国研修を実施できたが、平成27年度に関してはWM学生の韓国研修が実習等との日程調整がつかず未実施となった。今後、韓国研修を特定の学科のカリキュラムに組み入れる検討をしている。

・町内会との合同津波避難訓練の進捗状況は。

→平成27年11月6日にWM1号館にて実施予定で、現在町内会より7名の参加が見込まれており、学生・教職員と合わせると80名程の規模になる予定。

⑦ 学生の受入れ募集 →概ね良好である。

⑧ 財務 →良好である。

⑨ 法令等の順守

・自己評価及び学校関係者評価の時期について、もう少し早めの実施は可能か。また、学校関係者評価委員会の事前送付資料は自己評価のみで良い。

→昨年度も課題とされた実施時期について、7月～8月の実施を目指したい。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・ 中学校の総合学習の受入れについて、近隣校のみか。

→新潟県内全域の中学校から受け入れており、年間延べ 200 名程度となる。

WMに入学を希望する理由の一つに総合学習での学校訪問経験があり、介護職等の魅力についても啓蒙していきたい。